

2011

9

September
vol.159

川本嘉子



三船優子

FOCUS

9.22 木 ちょっとお昼にクラシック

川本嘉子 (ヴィオラ) & 三船優子 (ピアノ)

～ふたりのミュージックによる素敵な音楽の語り～

川本嘉子インタビュー！チャリティー活動やヴィオラの魅力を存分に語る

text：関根哲也

秋の訪れとともに、コンサートホールは一段と活気を帯びます。「芸術の秋」の到来です！忙しい日常から離れて束の間の休息をとり、美しい音楽で十分に心の栄養を補ってみてはいかがでしょうか。

水戸芸術館の秋のコンサート・シーズンの幕開けを飾るのは、人気シリーズの「ちょっとお昼にクラシック」。水戸室内管弦楽団の中心メンバーの一人としてはもちろん、ソロに室内楽に、日本を代表するヴィオラ奏者として活躍中の川本嘉子さんが、華麗なテクニックと多彩な音色を誇るピアニスト・三船優子さんとの共演で、ヴィオラの魅力をたっぷりと聴かせてくれます。(本演奏会は、東日本大震災の影響により中止された5月13日の演奏会の延期公演です。)

さわやかな7月下旬のある日、川本さんを訪ね、お話を伺いました。

ざいました！

川本：こちらこそありがとうございました！水戸の皆様も大変だったと思います。が、芸術館の活動が再開できて本当に良かったですね。

——あの震災以降、本当にいろいろなことがありましたが、川本さんはすぐにチャリティー活動に入られました。

川本：今思い返せば、たまたまだったのです。父や母のサークル仲間、先日まで社会で偉い立場にいた人たちが、こんな大震災が起こってしまって、「自分たちには何もできない」と自分の非力を嘆いていたそうです。「お嬢さんだったら音楽を通じて何でもできるから羨ましい」と言われて……。確かにそうだなと思いました。父の支えもあり、「何ができるかわからないけど、やってみるか！」という気持ちで始めました。いろいろな偶然が重なり、小菅優さん、野平多美さん、島田真千子さんほかたくさんの方々のご協力があって、名古屋で最初のチャリティー・コンサートを開くことができました。

——川本さんの中で、チャリティーへの意識というのは昔からおありだったのでしょうか。

川本：中越地震があった直後、小澤征爾先生の指揮で水戸室内管弦楽団が新潟に行きましたよね。あの時の長岡での慰問



新潟県長岡市内中学校での慰問コンサート (2004年12月6日)

演奏会は素晴らしくて、あれから意識が変わりました。演奏が終わった後、虹が素晴らしかったのを覚えていますか？あの出来事は、「ちゃんとしたことをすると、ちゃんと返ってくる」ということを証明してくれた瞬間だったと私は思っています。

——まさに「音楽にしかできないこと」でした。

川本：今回の震災で私が感じたのは、「言葉の怖さ」です。その人にとって、どれが傷つく言葉で、どれが好きな言葉で、どれが嫌いな言葉か、分からないじゃないですか。だから、言葉で人を慰めるのは怖いんです。例えば、「大変だったでしょう」と声をかけても、水戸を含め被災地の方々には「いやー、まあ」って答えますよね。「はい、大変です」とはあまり言わない。音楽でだったら、私は純粋に「大変だったでしょう」と伝えられるし、大変だった人は泣くことができます。震災

interview

川本嘉子



佐川文庫でのチャリティー・コンサート (2011年5月5日)

——7月上旬の水戸室内管弦楽団第82回定期演奏会とチャリティー・コンサート in TOKYO では本当にありがとうご

の体験は人それぞれだと思いますが、音楽は聴く人によってそれぞれ違った受けとめ方が出来るのが素晴らしいところですよ。

——川本さんは小さい頃からヴァイオリンを始め、ヴァイオリンとヴィオラと両方弾くようになり、その後ヴィオラに転向されますが、そのきっかけは？

川本：タングルウッドで勉強していた頃、楽屋からすばらしい音が聴こえてきて、それがヴィオラの音だったんです。何とも言えない良い音だなぁと思って。もうこれは絶対にヴィオラを弾こうと決心しました。偶然なんですけど、このきっかけは今井信子先生とまったく同じなんですよ！その後、東京都交響楽団に首席ヴィオラ奏者として入団し、ヴィオラ一本の生活に変わりました。

——川本さんにとって、ヴィオラとは？

川本：もしヴィオラという楽器がなかったとしても、ヴィオラの音に近い音をしようと努力していたと思いますね。ヴァイオリンはより繊細な楽器なので、力を込めて弾いたら音も良くない。自分のその曲に対する情熱はこんなに大きいのに、ヴァイオリンだとこれくらいしか出してはいけない、みたいな……。ヴィオラはそこを応えてくれます。自分の感性にはヴィオラが合っているんだと思います。

——そのヴィオラの魅力が、コンサート

では存分に味わえそうですね。

川本：パッサの時代から現代にいたるまでのヴィオラの役割や変遷などを、音楽の時代背景などを交えながら聴いていただけたら嬉しいですね。古典派の作品のヴィオラの譜面を見ると、もう笑ってしまうくらい真っ白なんです。ヴィオラができることは狭い枠の中に限定されている。ただモーツァルトは自分でヴィオラを弾いていたので、後期の作品は違ってきます。ベートーヴェンも、生活費を稼ぐためにポンのオーケストラでヴィオラを弾いていました。ですから、ベートーヴェンは自分自身でヴィオラの可能性を見出して、特に後期のカルテットでは他パートと対等に活躍させています。ブラームスも初演の時はほとんどヴィオラを弾いていたようです。そのせいで、他のパートの譜面には書かれているスラーなどの記号がヴィオラにだけなかったりして……。よく譜面を見ないとわからない謎がブラームスにはけっこうありますね。

——三船優子さんとの共演も楽しみです。

川本：実は同級生なんです。私は高校から桐朋でしたが、三船さんは大学から入って来ました。もう最初の日から、彼女は背も高かったし、あの美貌ですから、めちゃくちゃ目立っていましたね。あれよあれよという間にコンクールで1位を取られて、有名人になってしまわれたので、学生時代はあまり話す機会がありま

せんでした。どちらかというと憧れの存在で……。ここ1年くらいですけれども、一緒に仕事に恵まれて、友達としてもお会いすることが増えました。頭の回転が速い方で、決してネガティブにならないように先回りして雰囲気を変えてくれるんです。それが音楽に全部出ているので、私の足りない所をちゃんとフォローしてくださるので、人間的にも音楽的にもすごく信頼しています。

——最後に、お客様にメッセージを。

川本：水戸芸術館のコンサートホールは親近感があってとてもいいですね。皆様がどういう雰囲気でも聴いていらっしゃるのか、ステージからもよく見えます。9月のコンサートでまたお目にかかれるのが楽しみです。5月の演奏会は残念ながら中止になってしまいましたが、あの震災以降、私自身は一段と成長することができたと思っているので、皆様にはより一層楽しみにしていただければと思います。

(7月23日、東京にて)

ちょっとお昼にクラシック
川本嘉子 (ヴィオラ)
& 三船優子 (ピアノ)
～ふたりのミュージックによる素敵な音楽の語り～
9/22 (木) 13:30 開演 (13:00 開場)
会場 水戸芸術館 コンサートホール ATM
全席指定 ¥1,200 (1ドリンク付き)
出演 川本嘉子 (ヴィオラ)
三船優子 (ピアノ)
曲目 J.S. パッサ：無伴奏チェロ組曲 第1番
BWV1007 からプレリュード
シューマン：幻想小曲集 作品73
武満 徹：鳥が道に降りてきた ほか

音楽もいろいろ！

CAFE in Mito 2011- かかわりの色いろ

水戸芸術館もついに全館オープン！ 7月30日から始まった展覧会「CAFE in Mito 2011-かかわりの色いろ」は、ただの展覧会ではありません。多彩なジャンルの魅力的なイベントも目白押しです。音楽系のイベントとしては、先月号でもご紹介した「音楽×こども×アート」プロジェクトのワークショップ(8月28日)とその関連コンサート「みる☆ハルサイ 2台ピアノでストラヴィンスキー」(10月1日)それに大友良英さんの「アンサンブルズ・パレード」(9月24日)も。さらに「茨城の名手・名歌手たち」などに出演した個性豊かな3組の演奏家によるギャラリー・コンサートも開催！ 展覧会を華麗に、優雅に、楽しく彩ります。いろんなイベント、いろんな出会いにあふれた水戸芸術館に、1度といわず何度でもいらしてくださいね！

ギャラリー・コンサート



9月3日(土)
坂口大介 (サクソフォン)
with 岩附智之 (ヴィブラフォン)
服部良一：蘇州夜曲
サラサーテ：ツィゴイネルワイゼン ほか

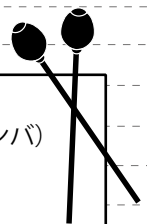
9月25日(日)
加藤直子 (ヴァイオリン)
with 片道子 (ピアノ)

メンデルスゾーン：歌の翼に
マスネ：タイスの瞑想曲 ほか



10月8日(土)
五十嵐美香 (マリンバ)
with 増淵亜依 (ピアノ)

安倍圭子：風紋
アンダーソン：フィドル・ファドル ほか



各日 12:00 ~ / 13:30 ~ (各回約 20 ~ 30分) 料金は展覧会入場料に含まれます。

text: 篠田大基

2011.7.9/10 水戸室内管弦楽団第82回定期演奏会 チャリティー・コンサート in TOKYO

東日本大震災を越えて、記念すべき再開の幕開けを飾る水戸室内管弦楽団（MCO）の演奏会。指揮者無しの公演で、ソリストには当館専属の「新ダヴィッド同盟」のメンバーでもある小菅優さん（ピアノ）をお招きしました。オーケストラのメンバーは7月5日にホールに集結、リハーサルが開始されました。水戸を第二の故郷と慕うMCOメンバーや小菅さんの今回の演奏会にかけの想いの深さは、彼らの紡ぎ出す音楽にこそ、もっとも雄弁に語られていると感じました。

7月8日には、堀原運動公園内の県立武道館にて「子どものための音楽会」を開催。水戸市内および近郊の小学校5年生およそ3,000名の児童が参加しました。定期演奏会で取り上げる3作品からの抜粋を、楽器紹介のコーナーを途中で挟みながら聴いていただきました。司会・進行役は工藤重典さん（フルート）と中村静香さん（ヴァイオリン）。お二人の明るく愉快的なトークが音楽会に花を添えました。

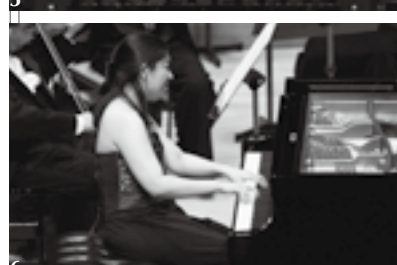
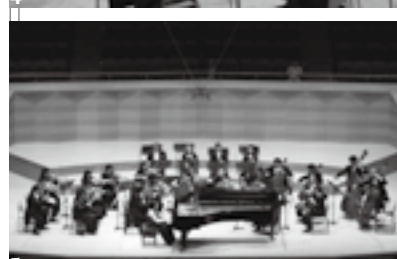
そして、7月9日。いよいよ定期演奏会の初日を迎えました。十数日前までは、埃にまみれ巨大な足場が張り巡らされていたホールが、今やかつてと同じ音楽の殿堂を目指そうという佇まいを取り戻し、ステージ上にいつもの水戸室内管弦楽団のメンバーがにこにこしながら登場します。満場の客席からは大きな拍手が巻き起こり、そして、演奏が開始されました。——ホールに音楽が戻ってきたこの瞬間を、私は生涯忘れることは無いと思います。演奏家も、聴衆も、スタッフも、そこに居合わせたすべての人が、苦境を乗り越えるべく、音楽を媒介にして、心を交わし合いました。このような生きる力が湧いてくるような演奏会を実現することこそ、私たち芸術館スタッフの大きな目標の一つであるとあらためて思いました。

再開を祝す音楽の花束のごときバッハの〈管弦楽組曲 第1番〉。小菅優さんの澁刺とした演奏をオーケストラが温かく支え、とても晴れやかな音楽を作り上げたハイドンの〈ピアノ協奏曲 二長調〉。コンサートマス

ターの豊嶋泰嗣さんを中心に、MCOならではの指揮者無しのダイナミックかつニュアンスに富んだ演奏を行ったシューベルトの〈交響曲 第5番〉。そして、演奏会の最後にはアンコールとして、復興への希望の想いとともにもーツァルトの〈ピアノ協奏曲 第21番 K.467〉の第2楽章を演奏しました。

7月10日には、午前11時から水戸で定期演奏会2日目を実施後、メンバーは休む間もなくバスに乗り込みました。行く先はサントリーホール。「被災地のために、自分たちも力になりたい」というMCOメンバーの厚意により実現したチャリティー・コンサート。収益は被災地の復興のために寄付します。サントリーホールの大ホールには1,500名近くのお客様を迎えました。演奏家たちは、会場を移動しながら1日2公演という異例のスケジュールに臨みましたが、最後の最後まで、感動的な演奏を繰り広げました。その強靱な精神力に、MCOメンバーの演奏家としての真骨頂を見る思いがしました。《中村》

定期演奏会のアンケートから■いわきから来ました。震災後、初めてプロの演奏を聴き、すごくドキドキしました。小菅さんの世界観にひきこまれ、自分もいっしょに曲の一部になったようでした。シンフォニーも、情熱ほとばしる気持ちがあふれてくるような、一粒一粒の音に体が震えました。アンコールは私の大好きな曲で、涙が出そうでした。（無記名の方）■私の居住地（栃木県真岡市）も震度6強で、あらゆるものが破壊されました。しばらくは音楽を聴く元気もなく、心が沈んでいました。水戸芸術館もパイプオルガンの様子を見て、何年かはだめだと思いました。しかし、今日、オーケストラの方々の姿がステージに現れた瞬間、目頭が熱くなりました。今日も元気をありがとうございました。（無記名の方）■震災後、待ちに待っていた定期演奏会。あの被害状況をみた時、今年中の演奏会は無理と思っていた矢先、チラシが送られてきた時はたいへん感激でした。メンバーの方々もたいへん心配していただき、水戸の一市民として涙の出るほどありがたかったです。迫力の演奏で元気が出ました。ピアノの小菅優さんも力強く、はちきれんばかりの演奏に、生きる勇気をいただきました。（水戸市：Y.T.さん）



水戸室内管弦楽団
1-2：子どものための音楽会
3-4：第82回定期演奏会
5-6：チャリティー・コンサート
in TOKYO

チケットに関するお問い合わせ

水戸芸術館チケット予約センター:029-231-8000
営業時間:9:30～18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

水戸芸術館音楽部門:029-227-8118

ホームページ <http://arttowermito.or.jp/>

公式ブログ <http://concerthallatm.blog101.fc2.com/>

ATM 便り 毎月1回茨城新聞に不定期登場

twitter @ConcertHall_ATM

チケット・インフォメーション

《8月20日(土)発売分》

- 水戸うらら女声合唱団
11/23(水・祝)14:00開演 料金[全席自由]¥1,500
- 小川瞳 ピアノ・リサイタル
11/27(日)15:00開演 料金[全席自由]¥2,000

《8月27日(土)発売分》

- 水戸芸術館復興支援チャリティー・コンサート
"芸術の灯を再び"
～潮田益子、工藤重典、吉野直子による祈りと希望の音楽～
10/12(水)19:00開演 料金[全席指定]一般 ¥3,000 / 学生 ¥1,000
- 内田光子 ピアノ・リサイタル
11/1(火)19:00開演
料金[全席指定]A席 ¥13,000 / B席 ¥11,000

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) X…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

- ◎古謝美佐子&城南海 ～琉球、奄美からの風～
…………… 8/21(日)中央△、左右△
- ◎ちよっとお昼にクラシック
川本嘉子(ヴィオラ) & 三船優子(ピアノ)
—ふたりのミュージーズによる素敵な音楽の語り—
…………… 9/22(木)中央○、左右・裏○
- ◎みる☆ハルサイ 2台ピアノでストラヴィンスキー
…………… 10/1(土)中央○、左右○
- ◎ちよっとお昼にクラシック 鈴木大介
—ソロでデュオでギター三昧—
…………… 10/22(土)中央△、左右・裏○

※8/2(火)現在の状況です。
※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせください。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な9月のスケジュール

コンサートホール ATM

- ちよっとお昼にクラシック
川本嘉子(ヴィオラ) & 三船優子(ピアノ)
—ふたりのミュージーズによる素敵な音楽の語り—
9/22(木)13:30開演 料金[全席指定] ¥1,200(1ドリンク付き)

ACM劇場

- 真野響子チャリティ公演『いのちの喜び、いのちの愛しみ』
9/11(日)15:00開演
料金[指定席(一部自由席)]前売:¥3,000 当日:¥3,300
- ACM劇場再開記念公演『新・幕末純情伝』
9/17(土)16:00開演、9/18(日)13:00 / 18:00開演
9/19(月・祝)14:00開演
料金[全席指定]前売:一般 ¥3,000 / 学生 ¥1,500
当日:一般 ¥3,300 / 学生 ¥1,800
- 第15回水戸短編映像祭
9/23(金・祝)～9/25(日)

現代美術ギャラリー

- 『CAFE in Mito 2011 一かかわりの色いろ』展
7/30(土)～10/16(日)9:30～18:00 ※入場は17:30まで
[休館日]月曜日
※2011年9/19、10/10(月・祝)は開館、翌9/20、10/11(火)休館
[入場料]一般 ¥800、団体(20名以上) ¥600
※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料
「アート ウェンズデー」本展開期中は毎週水曜日 入場無料
[参加作家] 青木陵子、青山悟、秋山さやか、伊藤存、上田薫、O JUN、笠原出、クリスト&ジャンヌ=クロード、川島秀明、小林孝亘、酒井咲帆、ジュリアン・オピー、杉戸洋、杉山知子、鈴木康広、曾谷朝絵 ほか
- 『CAFE in Mito 2011一かかわりの色いろ』 ギャラリー・コンサート
9/3(土)坂口大介(サクソフォン) 岩附智之(ヴィブラフォン)
9/25(日)加藤直子(ヴァイオリン) 片田道子(ピアノ)
10/8(土)五十嵐美香(マリンバ) 増淵亜依(ピアノ)
各日12:00～ / 13:30～(各回約20～30分)
※料金は展覧会入場料に含まれます。
- 映画『ハーブ&ドロシー アートの森の小さな巨人』上映会
9/10(土)、9/11(日)各日11:00～12:30
定員:50名(先着順) ※料金は展覧会入場料に含まれます。
- Nadegata Instant Party
映画『学芸員Aの最後の仕事』上映会+アフタートーク
9/10(土)14:00～16:00
定員:50名(先着順) ※料金は展覧会入場料に含まれます。

水戸芸術館周辺

- ACM劇場プロデュース
『プレイ×プレイ プロジェクト 水戸を元気に、街を劇場にー』
7/29(金)～9/10(土)
※詳細は、チラシ、水戸芸術館公式サイト、広報みと(8月1日号)をご覧ください。お問い合わせ:水戸芸術館演劇部門(029-227-8123)

茨城の主な9月の演奏会

- ギター文化館 TEL / 0299(46)2457
・大萩康司 ギターリサイタル 9/4(日)15:00開演
・チャン・デゴン ギターリサイタル 9/18(日)15:00開演
- ノバホール TEL / 029(852)5881
・つくば国際音楽祭 親子で楽しむ朗読コンサート『人魚姫』
9/25(日)14:00開演

避難訓練コンサートのチラシと先月号の『vivo』での紹介記事に掲載した出演者のお名前に誤りがございました。謹んで訂正させていただきます。
【誤】井川順(ピアノ) → 【正】長澤順(ピアノ)
【誤】人見奈保子(ピアノ) → 【正】人見菜保子(ピアノ)

編集後記

音楽部門で働くようになって、はや3ヶ月。芸術館も、お客様をお迎えする態勢が整い、うれしい限りです。気持ち新たに頑張れそうですが、お昼休みにコントロールポアン(ショップ)に入り浸る日々が始まる予感…(り)

昨年の夏は、眠さえあればガリガリ君(梨味)を食べていました。なんなら当たり棒が出る始末でした。が、昨年の暴食のせいか、今年は身体がアイスを全く要求しません。このまま要求されずに夏を終わりにしたいです。(og)

避難訓練コンサートの準備をしつつ、災害に関する本を何冊か読んでいる。災害は文化を破壊する。けれど復興とともに文化は生まれ変わる。震災を機に日本の文化がどう変わっていくのか、そこに興味があるのだ。(篠)

毎年意外なところで発見する蝉の羽化。今年は虎次郎(子犬)のサークルの柱の途中に抜け殻がくっついていて。目を上に転ずると、サークルの屋根に羽化したての純白の成虫が歩いている。虎次郎に食べられなくて良かった!(て)

逗子海岸の砂浜にある夏季限定ライブハウス"音霊(オトダマ)"に行ってきた。音楽と海が同時に楽しめる最高の空間だった。そしておかげ様で当館ホールもMCOで再開!皆様もぜひすばらしい空間で、いい音楽を。(樹)

自宅の壁に、虫のサイズを明らかに超えている黒い物体がへばりついていて。恐る恐る近寄って見たらコウモリだった。中国では吉兆とされているそうだが、我が家もぜひあやかりたい。(虫ばかりか色々な生物が怖い(中))

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

2011年9月発行 第159号
編集発行 / 水戸芸術館音楽部門
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
tel:029-227-8118 fax:029-227-8130
ankmr@arttowermito.or.jp
<http://arttowermito.or.jp/>

編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順) : 石井亮子
大金絢子 篠田大基 関根哲也 高巢真樹 中村晃
デザイン / 大金絢子
印刷所 : 株式会社あけぼの印刷社

次号は・・・「芸術の灯を(秋編)」など音楽三昧!